

SKY コーナー

「2017 ITEA信越安全大会」開催

小さなエラーで大きな災害 大きな事故の小さな予兆 “初心に戻って安全確認”
～安全に“絶対”は無い！ 潜む危険を察知できる能力を磨き、小さな異変、
小さな予兆を丁寧に取り除くことで、仲間の大切な命を私たちは守り続けていく～

情報通信エンジニアリング協会 信越支部

(一社) 情報通信エンジニアリング協会信越支部主催、NTT東日本・NTTグループ各社様の後援により「2017 ITEA信越安全大会」を去る平成29年8月25日に長野市、9月1日に新潟市において開催しました(写真1)。本大会は、平成23年度にITEA信越安全大会としてスタートし、今回で7回目の開催となりました。

大会メインテーマを、『小さなエラーで大きな災害 大きな事故の小さな予兆 “初心に戻って安全確認”』とし、サブタイトルを『安全に“絶対”は無い！ 潜む危険を察知できる能力を磨き、小さな異変、小さな予兆を丁寧に取り除くことで、仲間の大切な命を私たちは守り続けていく』として、大会の冒頭で司会者の発声による全員唱和および、サブタイトルについて内容の説明を下記の通り行いました。

●潜む危険を察知できる能力：大会の目玉でもある「バーチャルリアリティ(VR)での危険体感」への導きを表現。

●小さな異変、小さな予兆を丁寧に取り除く：参加者全員が、「基本動作の習慣化を超えた 安全対策に挑戦していく気持ち」を表現。

●仲間の大切な命を私たちは守り続ける：事故ゼロを続けていくには「仲間を思いやる職場風土」が不可欠、この風土を「信越風土」として全員で作りに上げていくという誓いを表現。

また、前回大会に引き続き協力会社社員の皆さんから安全標語を募集し、優秀作品に選出された「まあいいか、一度の妥協が命取り、危険予知してゼロ災害(長野大会)」「急ぐ仕事に潜む事故 基本動作の再確認(新潟大会)」を掲げて開催しました。

来賓にNTT東日本・NTTグループ各社の幹部の皆様をお迎えし、ITEA会員各社および協力会社の現場第一線の社員の皆さんが長野と新潟の2会場に集結し、約1,000名の参加となりました。

大会は、参加者全員での大会テーマの唱和からスタートし、ITEA信越支部長の挨拶、来賓者様からのご挨拶・ご講演、代表会社様による安全・改善事例発表、危険体感デモ、安全ビデオの視聴を行い、最後に安全決意表明と参加者全員による安全唱和で幕を閉じました。また、屋外・ロビーでは展示ブースを設け、NTT東日本グループ会社様、通建会社様、メーカー様総勢20社による機械器具工具等の展示を行いました。

大会テーマ唱和

昨年の大会に引き続き、参加者全員の本大会に向かう意識を統一させるために、司会者のリードによる大会テーマ「小さなエラーで大きな災害 大きな事故の小さな予兆 “初心に戻って安全確認”」の唱和を行いました(写真2)。



写真1 大会模様



写真2 大会テーマ唱和

小川支部長挨拶

主催者を代表して小川信越支部長から「安全文化の創造」と題して講話がありました（写真3）。

まず、信越および全国における人身・設備事故の発生状況について触れるとともに、「絶対に起こしてはならない事故」の状況、道路横断・第三者加害事故の発生状況、施工現場における安全の取組み、基本動作を徹底するためにしなければならないこと、また、すべての職場・すべての業務における安全の取組みおよび、事故情報の共有・安全施策の水平展開について説明しました。

まず、信越の事故の分析では、残念ながらすでに人身事故1件、設備事故2件が発生していますが、誤接続等の事故は昨年同様0件を継続している状況であることを述べました。また、全国での人身事故の状況は、昨年度4件、今年度は残念ながらすでに1件の死亡事故が発生している状況であると述べました。

次に、「絶対に起こしてはならない事故」は、以前と同様に『高所からの転落』が後を絶たない状況であり、昨年度起きた死亡事故4件のうち3件が転落による事故であること、またこのような状況の中、今年度は『道路横断』での死亡事故が発生していることについて触れました。さらに最近の事故の中で、『道路横断・第三者加害事故』といった



写真3 小川支部長挨拶

内容の事故がふえてきており、『道路横断事故』については毎年1～2件発生し、怪我の状態も軽傷の場合は少なく重篤な状態につながっているケースがほとんどであると述べました。また、『第三者加害事故』についても事故に遭われた方々へ大変なご迷惑をかける状況であることについて述べました。

上記の内容を踏まえて、作業員1人ひとりが、基本動作の必要性をしっかりと理解し、基本動作を確実に実践することが最も重要であるとし、基本動作を徹底するために、「安全意識の高揚」、「全員参加（全プロセス）による安全の確保」、「プロ意識・責任意識の徹底、リーダーシップの発揮」および、「安全施策の棚卸し・悪循環からの脱却」が必要であると述べました。その中でも「全員参加（全プロセス）による安全の確保」については、「事故は、施工現場だけでは無くせない」とし、事故は現場だけでなくすべての職場・すべての業務に関わり、事故撲滅には、1人ひとりがプロとして責任ある仕事を確実に実施することが基本であると述べました。

また、事故情報の共有・安全施策の水平展開について、今年度ITEAでは、ドコモ様の事故を契機に新たにドコモ様との間で安全対策について話し合うための部会を設立し、NTT様の建設工事・設備運営業務に加え、ドコモ様および、その他の工事での事故情報と安全施策について共有・展開する事が必要だと説明されました。

最後に、事故を撲滅するには1人ひとりが意識して地道な取組みを継続することが必要と述べ、「皆さん1人ひとりの感性で危険を認識し、基本動作を徹底することで信越から人身事故・設備事故を撲滅させましょう!!」と力強いメッセージで締

めくりました。

来賓挨拶

来賓を代表してNTT東日本ネットワーク事業推進本部エンジニアリング部エンジニアリング部門長 小林博文様からご挨拶をいただきました（写真4）。

まず、NTTを取り巻く情報通信環境は、技術の進歩・お客様の利用シーンの変化等により激変している中、従来の回線事業だけではなく、新たなサービスの拡大・強化が進められていること、および、不安全設備解消、災害への対応等を通じた社会インフラ事業の両方を支えていただいていることへの御礼のお言葉を頂戴しました。

また、重大人身事故が発生し続けていることに触れ、発生している事故の共通点が“想定外の事象”の中で起きる「近道行動」であり、さらに、周囲の人たちが見えていたにもかかわらず注意ができていなかったことが要因であることと述べられました。このような“想定外の事象”の場合、すべてのセーフティネットをくぐり抜けて事故が発生していると述べられました。その他に“釜石の奇跡”について取り上げられ、『自分の命は自分で守る』『守られる人から守る人へ』。この2つは工事安全に通じるところがあると感じていると述べられました。



写真4 来賓挨拶

最後に、「仲間の大切な命は自分たちで守る」を意識していく」と強く述べられました。

特別講演

長野会場では「NTT東日本の事業動向および建設業界の取り巻く環境」と題してNTT東日本長野支店長 岩井 修様から、新潟会場では「NTT東日本の事業動向と安全への取り組み」と題して、NTT東日本新潟支店長 山本 健一様からご講演をいただきました(写真5・6)。

岩井支店長様、山本支店長様ともに、「NTT東日本の事業動向」について、現在のNTT東日本は過去最高益を3期連続更新しており、生産性向上等の取り組みにより費用を削減し、利益を確保している状況であるとし、今後も高付加価値サービスの拡大や業務効率化に向け、引き続きご協力をお願いしたいと述べられました。

また、岩井支店長様からは、「建設業界の取り巻く環境」について、

現在の電気通信建設業は求職者数の減少により求人倍率が高くなっている状況のご説明をいただき、求職者数の増加に向けて、安全で魅力ある業界にしていくため協力会社様とNTT東日本様が一緒になって取り組んでいきたいと述べられました。

そして、山本支店長様から「安全への取り組み」について、平成29年7月末現在で新潟エリアでの事故は発生していないとしながらも、人身・設備事故の撲滅に向け、継続的な安全に対する取り組みが必要であると述べられました。また、人身・設備事故の与える影響についてもお話をいただき、当事者だけでなく、所属会社、業界、NTT東日本・グループ各社へも波及し、大きな影響を及ぼすことについて、ご説明いただきました。

安全・改善事例発表

長野会場では(株)NTT東日本一関信越長野、日本コムシス(株)、(株)協和



写真5 長野支店長様



写真6 新潟支店長様

エクシオ、(株)アルスター、(株)TOSYSの5チーム、新潟会場では(株)NTT東日本一関信越新潟、(株)ミライト、NDS(株)、(株)トースイス新潟、(株)TOSYSの5チームにより、日頃、業務の中で取り組んでいる安全・改善活動の中から表1のテーマについて発表と熱心な質疑が行われました(写真7~16)。

表1 改善事例発表テーマ

会場	発表テーマ	会社・所属	発表・PC操作	写真No
長野大会	1 第三者への加害事故防止に向けて	(株)NTT東日本一関信越 長野支店 設備部 長野サービスセンタ	発表：海口 幸一 操作：伊田 英正	写真7
	2 転落事故防止に向けた取組	日本コムシス(株) 信越事業部	発表：大柿 勝 操作：小宮山 正浩	写真8
	3 ケーブルドラムストッパーの考案	(株)協和エクシオ 安全品質管理本部 技術開発センタ	発表：鶴田 勉 操作：富田 哲也	写真9
	4 地域維持型契約工事への取組	(株)アルスター 松本事業部 木曾営業所	発表：澤頭 晴秋 操作：松尾 宗範	写真10
	5 施工者に設計情報を確実に伝えるには	(株)TOSYS 長野通信システム事業部 施工部門 東信事業所	発表：徳武 透 操作：山崎 昌也	写真11
新潟大会	1 安全行動(やる意味)の浸透に向けて	(株)NTT東日本一関信越 設備部 エンジニアリング部門 新潟施工管理担当	発表：金子 修二 操作：-	写真12
	2 NW事業部安全確保に向けた取組み	(株)ミライト NTT事業本部NW事業部	発表：福宿 尚一郎 操作：吉沼 富士雄	写真13
	3 ヒヤリハット収集・活用の改善	NDS(株) 安全品質管理本部 安全品質管理部	発表：鏡味 大輔 操作：-	写真14
	4 フレコンバックの固定方法の改善について	(株)トースイス新潟 情報ネットワーク事業本部 アクセス部門	発表：稲田 峻 操作：内田 和孝	写真15
	5 工事時間を短縮させるには	(株)TOSYS 新潟通信システム事業部 施工部門	発表：伊藤 夕麻 操作：河内 敦	写真16



写真7 NTT関信越（長野会場）



写真13 ミライト



写真18 昇柱の様子



写真8 日本コムシス



写真14 NDS



写真19 コントローラで点検作業中の様子



写真9 協和エクシオ



写真15 トーシス新潟



写真20 転落の様子



写真10 アルスター



写真16 TOSYS（新潟会場）



写真21 エントランスでの様子



写真11 TOSYS（長野会場）



写真17 ヘッドマウントディスプレイ装着の様子



写真12 NTT関信越（新潟会場）

危険体感デモンストレーション

今回の大会の目玉でもある、「バーチャル・リアリティ（VR）体

感」装置をNTTテクノクロス様のご協力をいただきながら実演し、『鉄塔からの転落体感』を体感しました（写真17～21、図1）。

ステージで体感していただく方々にはリハーサルなしで体感していた

感謝状と記念品の贈呈が行われました（写真22・23）。

ゼロ災の決意表明・安全唱和

大会の結びとして、協力会社代表によるゼロ災の決意表明、参加者全員による安全唱和を行いました（写真24～26）。協力会社代表による決意表明として、

「2017 ITEA信越安全大会にお集まりの皆様、ご来賓のNTTグループの皆様、今、信越エリアにおいても、光を中心としたブロードバンドネットワークの普及拡大に伴うグローバル化の進展に加え、スマートフォン・タブレット端末の多様化・高機能化に伴い急増する大容量トラフィックに対応するため、モバイルネットワーク環境の構築が進められております。

これらのインフラ構築を、安全に完了させるために私たちは本日の安全大会でご講演いただいた内容や、各発表、改善に向けた展示の思いを十分に理解し、自分のものとして職場に展開していくことが責務であり、多くの仲間達に伝えていく事が大切であります。

全国的にも死亡事故を含め重大な事故が多発している中、信越エリアにおいても、今年度は共架柱建設時の地絡事故を含め、連続3件の事故を起こしてしまいました。この事故の連鎖をきちんと断ち切るためにも、私たちは今までの事故事例を自分の身に置き換え、再発防止対策を確実に実施するとともに、NTTグループの皆様、さらにそのお客様の信頼を回復するために、次のことを守り作業を進めます。

- ・一つ 自分の身は自分で守ります
- ・一つ 仲間の不安全行動はお互いに注意します



図1 VR体感システムの構成図



写真22 安全標語表彰
（長野：朝日大介さん）



写真23 安全標語表彰
（新潟：齋藤章浩さん）

だき、バーチャル体感を通じて、潜む危険を察知できる能力を身につけていただきました。

また、より多くの方々に体感していただくため、ステージでのプログラム以外に、開始前や休憩時間中にエントランスで総勢52名の方々に体感していただきました。

体感された方々は基本動作ができていないことで、転落という事故につながることの再認識、落下することへの恐怖感を意識することができた、という感想をいただきました。

安全ビデオ視聴

昨年度に引き続き、『忘れてはならない重大人身事故』

ここ数年で発生した、決して忘れてはならない重大人身事故の事例を

再現した安全ビデオをNTT東日本様、NTT西日本様からお借りし、「荷崩れ／落下」、「転落（建物）」、「転落（夜間路肩）」、「ウィンチ（巻き込まれ）」の4コンテンツを視聴しました。この映像から、基本動作を徹底すること、現場での危険を事前に感じる感性を育てることを基本とし、全員が安全に関する意識を改革していかなければならないと改めて感じました。

安全標語表彰

優秀作品に選出された「まあいいか、一度の妥協が命取り、危険予知してゼロ災害（長野大会）」「急ぐ仕事に潜む事故 基本動作の再確認（新潟大会）」をお作りになられた協力会社社員の方々へ小川支部長より



写真24 決意表明
(長野：岸本勝幸さん)



写真27 展示コーナー（資材リンコム）
Watt Satt（非常用マグネシウム空気電池）



写真29 展示コーナー（日本コムシス）
屋外線の仮留把持具（車両事故防止）



写真25 決意表明
(新潟：丸山康博さん)



写真28 展示コーナー（トーツー創研）
ダン吉NT



写真30 展示コーナー
(アイチコーポレーション)
軽自動車架装式高所作業車



写真26 安全唱和

- ・一つ 基本動作を守って安全に作業します
- ・一つ 個人情報などお客様情報は十分注意して取り扱います
- ・一つ 日々安全意識の醸成に努めます

以上、信越エリアにおける人身事故・設備事故・セキュリティ事故0（ゼロ）を達成するため全員一丸となって取り組んで参ります。」

という力強い宣言をし、最後に大会スローガンを読み上げゼロ災の決

意表明としました。

安全・VE展示

NTT東日本 技術協力センタ様、NTT東日本-関信越様、NTT REC様、アイチコーポレーション様、北日本防食様、ジャパンリーコム様、住電オプコム様、高千穂産業様、トーツー創研様、日鐵住金建材様、日本通信電材様、ミドリ安全様、資材リンコム様、通建会社6社が、作

業性改善、安全・品質向上につながる提案品を展示しました（写真27～30）。展示コーナーでは、各社VE提案品に直接触れて説明を聞くことにより、参加者は安全・品質改善取り組みの重要性について再認識することができました。

終わりに本安全大会の開催にあたりご協力をいただいたNTTグループ・通建各社の皆様に厚く御礼申し上げます。